

## 協会知名度さらなる向上へ

### J E R 協会 総会開き事業計画を承認

J E R コンクリート補修協会の定期総会が8月18日、オンラインで開催され、令和3年度事業計画などを承認した。冒頭、佐藤匡良・会長（日



佐藤会長



井上部会長

本ツッコウ社長）は「今年度も新型コロナウイルスの感染状況を睨みながらの活動となるが、本協会の知名度をどう高めていくかを考えながら取り組みたい」とあいさつ。

議事では令和3年度事業計画案および予算案などを審議、決定した。今年度は新工法を追加した総合カタログ（下水道編）のリリース、広告媒体の有効活用、オンライン研修会用のコンテンツ制作、協会ホームページのリニューアルとS E O対策、技術委員会の設立、

い。その一環でウェブの活用と充実を図るとともに、展示会にも積極的に出展し新たな顧客の獲得に繋げたいとあいさつ。

また、同協会に先立ち、管路部会も総会を開催した。冒頭、井上敬介・部会長（日本ツッコウ執行役員更生開発部部長）は「国土交通省が令和7年度までのインフラ長寿命化計画を発表した。予防保全型の修繕を促す方針が示され、マンホール

協会認定工法の新規追加（ジックボードS工法、T工法）、会員表彰制度の創設、コンクリート防食技士の資格取得者の増加などに取り組む。

また、同協会に先立ち、管路部会も総会を開催した。冒頭、井上敬介・部会長（日本ツッコウ執行役員更生開発部部長）は「国土交通省が令和7年度までのインフラ長寿命化計画を発表した。予防保全型の修繕を促す方針が示され、マンホール

長寿命化対策への関心が高まることを期待している。ジックボードJ工法が建設技術審査証明を取得した。同M工法やZ七ルタルKS500M工法と合わせ、普及拡大に向けた啓発活動を進めた」とあいさつ。

今年度は、支部の設立による部会活動の活性化、管路部会が保有する技術の啓発、積算ソフトの作成による業務の効率化の3点を軸に活動を展開する。